

# 初中級教材とスキット作成による会話の授業

小池 恵己子

科目名：男女の会話から学ぶ「ていねいな話し方」「うちとけた場面での話し方」

レベル：初級1・2／中級③・④・5／上級6・7・8

履修者数：平均32名

## 1. この授業のねらい

このテーマ科目のキーワードは「話す」「聞く」「生活」で、身近な生活の場面で、状況や人間関係、会話の目的に応じて、丁寧体と普通体を変えて話せるようになることを到達目標にしている。日本に初めて来た学習者が、今まで使ってきた丁寧体では友だちに話す時に丁寧すぎることに気づいたと感想を述べていた。また、女性らしい話し方で話したいと希望を述べた学習者がいた。男女のことばの差は縮まったと言われるが、女性が使うと乱暴に聞こえる言い方、あるいは男性が使うと優しすぎる話し方は確かにある。そうした違いに気づき、話し相手や状況によってことばや表現を適切に使えることを目指している。

## 2. 授業で行った学習活動の取り組み

学習活動は大きく3つにまとめられる。①話しことばの特徴の確認、②男女が話す短い会話、および機能に重点をおいた会話による学習、③スキットの作成と発表である。

話しことばの特徴のうち、基本となる縮約形、音変化、語順などを主に前半の授業の始めに練習している。「行きましたか」「行ったんですか」「行く?」「行くの?」の表現意図の違いや、「～じゃない」のイントネーションによる意味の違いなど、文脈に左右されるものは会話の練習や発表後のクラス全体のフィードバックで練習する。

普通体で顕著に特徴が表れる男女のことばは、述部に着目して会話文の中で練習する<sup>1)</sup>。丁寧体で書かれた会話の内容を理解してペアで練習した後、その会話を親しい友人の場合に変えて普通体で言い直す練習をする。そして、教材の男女の役割を逆にして男女のことばのどこが違うかを考えて、音声で確認して練習する。丁寧体/普通体の変換自体を難しく感じる学習者もいるため、男女のことばの違いは基本的なものにとどめている。

また、日常会話で重要だと思われる謝罪、感謝、確認などの機能を選び、それに合った初中級の会話教材（音声・映像）を用いて練習する<sup>2)</sup>。会話の人物の立場を入れ替えて練習することもある。既成教材の会話文を使うのは、さまざまな話し手の会話を音声で学習者に示すことで、その韻律や表現を、学習者自身が言いたいことを表現するときの素材にしたいからである。依頼の応答練習では、物の貸し借りなどの練習の他に教室外で自分の使った依頼表現と相手の反応を書いてくるのを宿題にしている。実際に使った日本語を記述し、振り返ることで、頼むときには丁寧な態度も大切だと気づいた学習者がいた。

スキットの作成とその発表はペア/グループで3回実施する。学習者の組み合わせは毎回替える。テーマは授業で扱った「お礼を言う」「謝る」「誤解を解く」「問題を解決する」などである。話の内容、場面、人間関係などの設定、会話のスタイルの選択は学習者が自由に決める<sup>3)</sup>。学習者から質問があれば、表現したい状況に沿って会話の流れや待遇表現、

あいづちなど、自然なやりとりになるように教師とボランティアが助言する。1回目と2回目は、それぞれ話の内容の大筋は変えずに人物の役割（親疎関係）を変えて丁寧に話す場面とカジュアルに話す場面の両方のスキットを書き、どちらかを発表する。3回目は目上の人を加えた少し複雑な状況にしてひとまとまりの自然な会話になるようにする。教師が指摘した誤解を招きそうなところを、学習者はグループで検討して発表に向けて練習する。発表後、学習者相互の簡単な評価、自己評価をし、教師はコメントを本人に伝える。

学習者によるスキットの作成・発表は、あらたまった場面、くだけた場面での日本語の使用の機会になっている。スキットの創作には、今までに体験した状況の再現も含まれるだろう。実用的な会話がある一方で、学習者が表現しなかった架空の状況など様々な会話が教室で披露され、学習者はお互いに刺激を受ける。スキット作成の過程で、学習者たちは相手の意見を聞き、歩み寄って折り合いをつけなくてはならない。意見が合わない場合もあるが、この過程自体が学習者同士のコミュニケーションの機会になっていると言える。

### 3. 改善すべきこと

使用教材の内容が学習者に必要で、興味を惹くものかどうか、そして評価の方法もさらに検討する必要がある。また、モダリティを含む終助詞の使い方や男女のことばづかいの文末の違いをあまり整理していないため、混乱する学習者もいるので、丁寧体/普通体の変換の練習も含めて検討する必要がある。具体的で実践的な練習を行っていかなければならない。もう一つの問題点は受講者数が多いことである。様々な発表を見る利点もあるが、学習者への対応の時間が少なく、イントネーションや発音などの面でも一人一人に十分な手当てができないのは問題である。また、受講者に上級者が多いと中級の学習者が登録できないことがあるので、対象レベルの学習者が履修できるようなクラス分けが望まれる。

### 注

- 1) 放送大学教育振興会（2005）『日本語中級からのスキルバランス』「男女の会話」のいくつかの課を扱っている。例えば「きれいだろ/きれいでしょ」「あっちにあるよ/あっちにあるわよ」（上掲書 p.3, p.15）などの文末を確認し、男女両方の言い方を練習する。
- 2) 上記1)の教科書の他に、富阪容子（2005）『なめらか日本語会話』アルク、国際学友会日本語学校（2000）『留学生の日本語会話』第4版 国際学友会、国立国語研究所（1993～1997）日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」、海外技術者研修協会（1991）「新日本語の基礎Ⅱ 復習ビデオ」スリーエーネットワークなどから選んで使用している。
- 3) 男女のことは、ことばだけの問題ではなく、他者に推奨されるものではないので、学習者が自身の判断で決める。男子の役になって会話の発表をした女子学生が何人かいた。

（こいけ えみこ，早稲田大学日本語教育研究センター）